

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 住吉区

学 校 名 南住吉小学校

学校長名 小西 正晃

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南住吉小学校では、第6学年 139名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では平均正答率は全国・大阪市平均をやや下回るもののほぼ同じ水準であった。特に「情報に関する扱いの事項」においては、全国平均・大阪市平均ともに上回る結果となった。また「書くこと」の領域においては、正答率で各平均を下回る結果となった。

算数科では平均正答率は全国・大阪市平均と同じ水準となり、昨年度を大きく上回った。領域別の正答率をみると、「図形」「変化と関係」「データの活用」において全国平均を上回る結果となった。また、平均無回答率に関しても、全国平均より少ない結果となった。

児童質問紙では、本校の重点5項目全てにおいて、肯定的な回答の割合が全国・大阪市平均を上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別にみると、各教科でも取り組んでいる「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域が全国・大阪市平均を下回る結果となった一方、「読むこと」の領域においては上回る結果となった。今後は「話すこと・聞くこと」の向上に向けては、あらゆる教育活動を通してコミュニケーション能力の向上に努める。また、「書く」力をつけるためには、日々のノート指導や作文指導などを継続していく。

〔算数〕今年度は前述の通り、「図形」「変化と関係」「データの活用」において全国・大阪市平均を上回る結果となった。朝学習や習熟度別少人数指導だけでなく、デジタルドリル等の効果的な活用を図り、より個に応じた学習を重ねていることが主な要因と考えられる。今後も継続して指導していく。また、平均無回答率の結果については、算数に対する児童の意欲の高まりが表れており、引き続き算数の楽しさが感じられる授業づくりを進めていく。

質問紙調査より

児童質問紙では、各家庭の協力もあり、朝食を毎日食べる児童は昨年度同様約95%と高い割合であった。自尊感情や自己肯定感、自己の将来像に関しては全国平均を上回る結果となっており、主な要因として、道徳やキャリア教育など学校全体で系統立てた指導によって、6年間を通して縦断的な学びができていることが考えられる。

また、いじめに対する意識や自己有用感の高まりも全国と同じ水準であった。学校全体で取り組んでいる人権教育活動により、児童が自ら考えて行動する場面を数多く設定できていることが主な要因であると考えられる。ただ、自信をもって成果を実感したと回答している児童の割合は全国・大阪市平均を下回っているため、引き続き取り組みを継続的に行っていく。

今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに全国・大阪市平均を上回る項目があることから、今後も継続した取り組みにより、引き続き基礎・基本の定着をめざした指導・支援を行う。特に、自分の考えをもち、豊かに交流できる子どもを育てるため、すべての教育活動を通して、コミュニケーション能力や読解力の向上に努め、授業の中でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れていく。また、各教科の取り組みとして、児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じたオンデマンド教材やデジタルドリル等の活用を積極的に取り入れる。規範意識のさらなる向上に向けては、本校が特に大切にしている「南住吉10のルール」を児童に対して意識付けを行い、教職員で連携して対応していく。

【 全体の概要 】

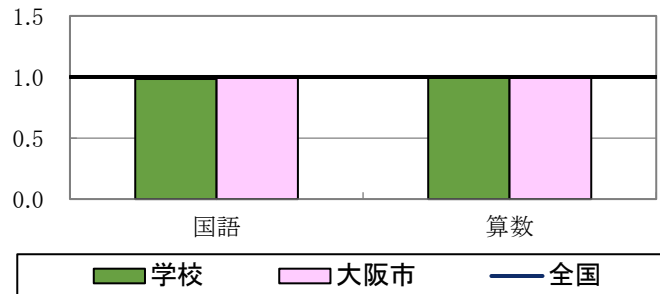
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	66	62
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

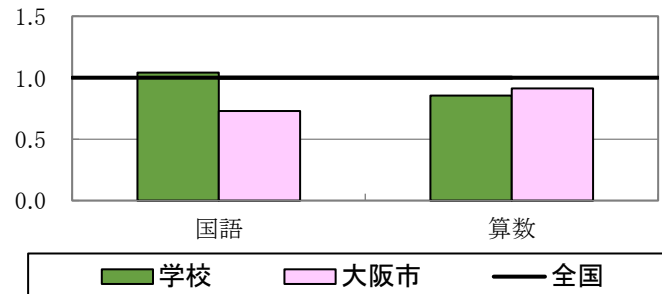
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	5.0	2.9
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



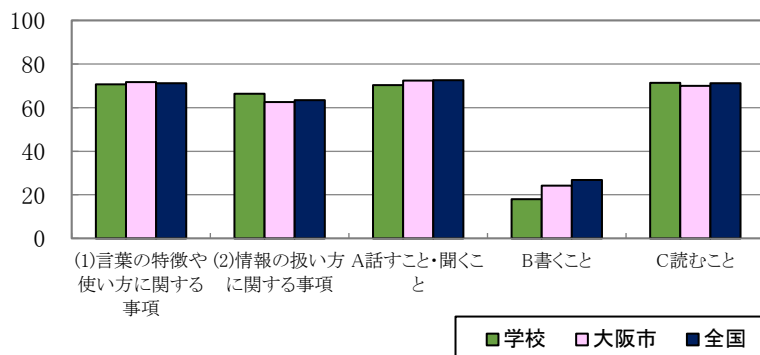
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	70.7	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	66.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	70.4	72.4	72.6
B 書くこと	1	17.9	24.2	26.7
C 読むこと	3	71.4	69.9	71.2

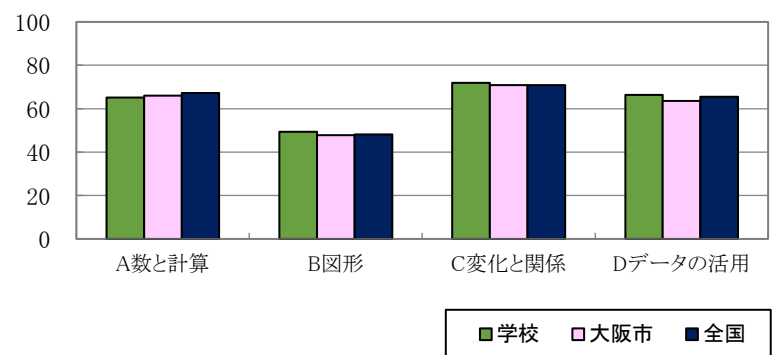
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	65.2	66.1	67.3
B 図形	4	49.3	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	72.0	70.8	70.9
D データの活用	3	66.4	63.6	65.5

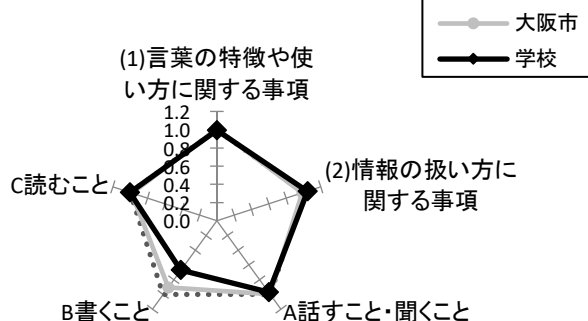
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



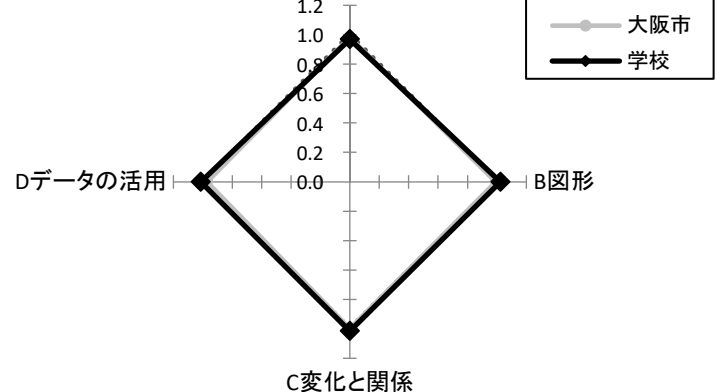
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



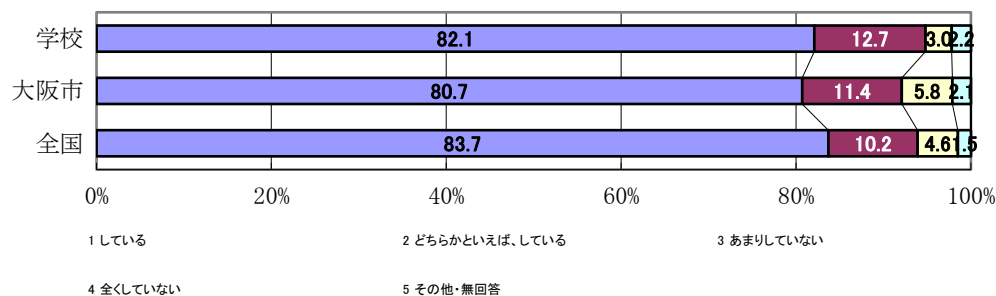
児童質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

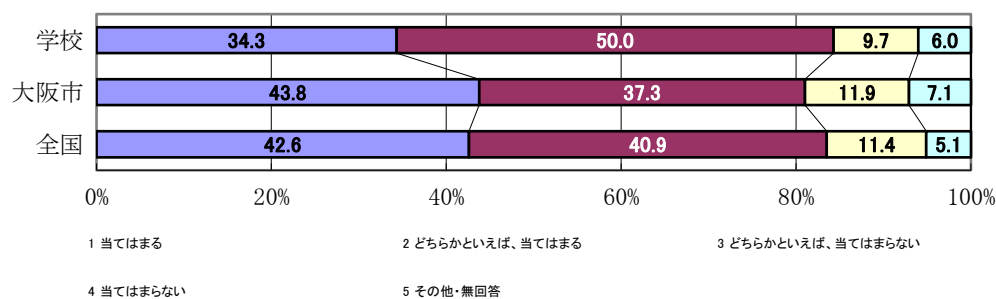
1

朝食を毎日食べている



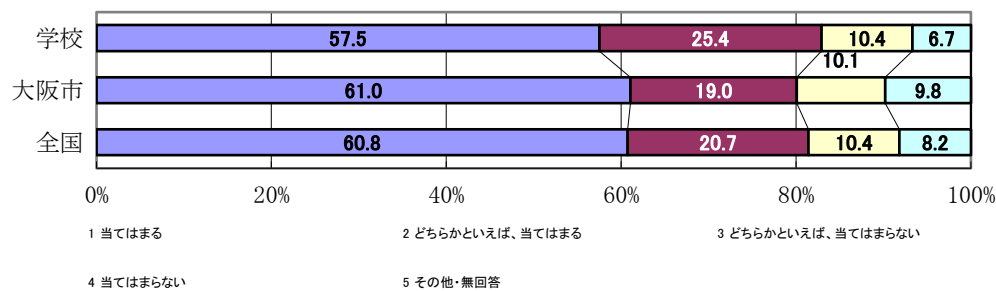
4

自分には、よいところがあると思う



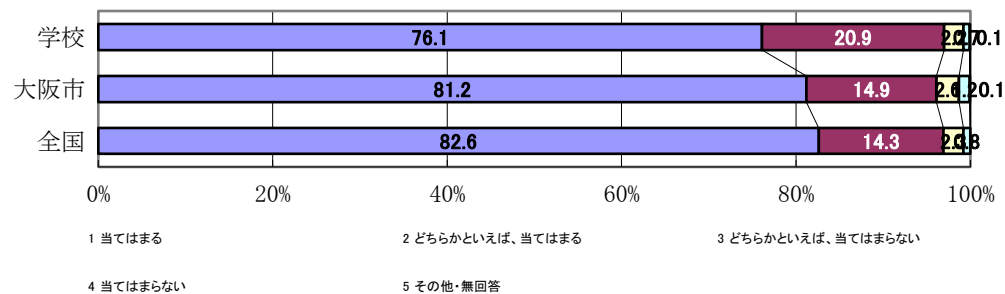
7

将来の夢や目標を持っている



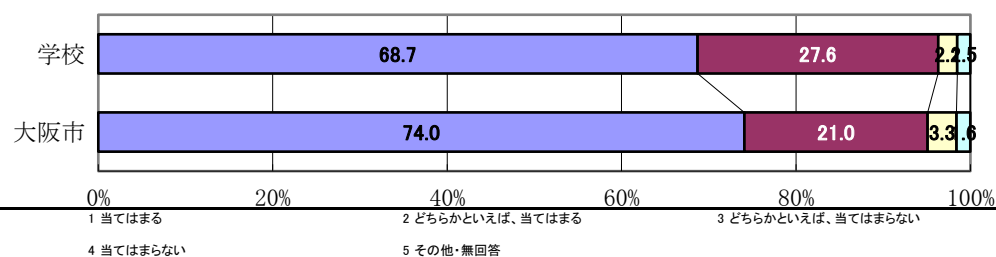
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



11

人の役に立つ人間になりたいと思う



学校質問紙より

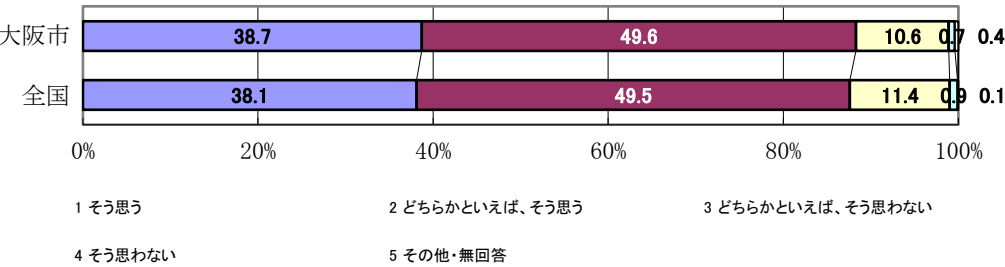
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

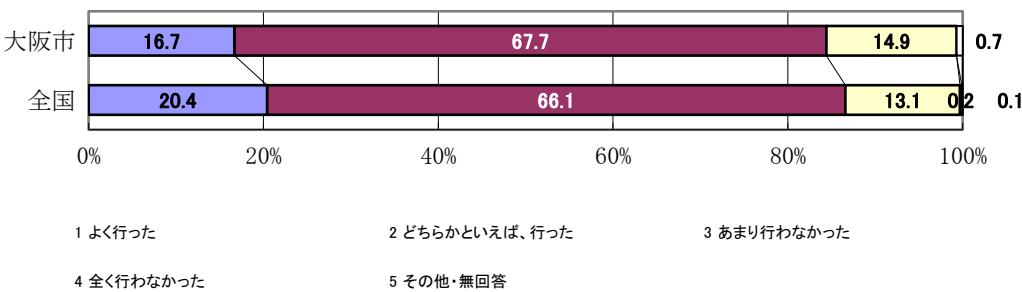
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



11

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

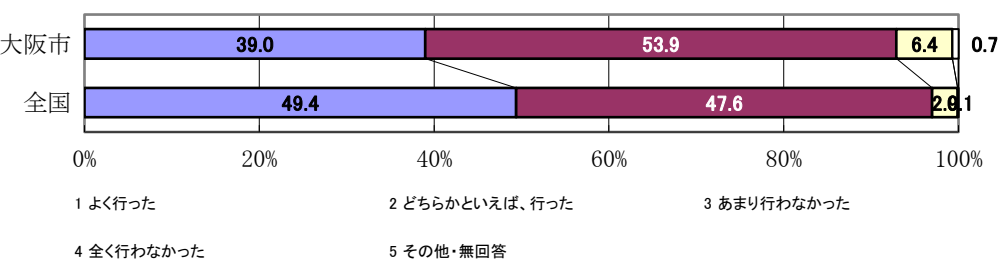
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



12

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

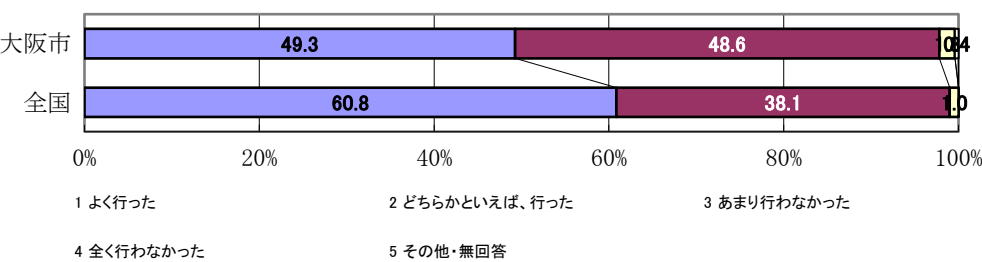
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



14

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

